

知の集積へ。

三重大学人文学部
大学院人文社会科学研究科

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
総務担当 TEL.059-231-9195
学務担当 TEL.059-231-9197
Mail:kouhou@human.mie-u.ac.jp
http://www.human.mie-u.ac.jp/



2014 案内

三重大学大学院
人文社会科学研究科
(修士課程)

Mie University Graduate School of Humanities
and Social Sciences, Master's Course

人文社会科学研究科の歩み

人文社会科学研究科は、1992年(平成4年)4月に設置された研究科であり、大学院の修士課程を有しています。その後8年を経て、研究科の教育体制等の改革に関する議論が進められる中で、2000年3月には、本研究科と地域との交流をコンセプトとした新雑誌「TRIO—三重の文化・社会・自然—」が創刊されました。そして2001年には、教育体制の改編とカリキュラム改革がなされました。具体的には、有職者を積極的に受け入れるために昼夜間開講が実施されることとなり、また、大学院生による地域研究と地域貢献を進めるために、新しい授業「三重の文化と社会」が開講されました。そして2011年には、学生定員増が実現し、それまでの定員10名に5名分が追加され、計15名となりました。本研究科では、20年以上に及ぶ歴史の中で、これまでに約350名の修了生を送り出してきました。



人文社会科学研究科の理念

人文社会科学研究科は、**地域文化論専攻**と**社会科学専攻**の2専攻で構成されています。本研究科は、人文社会科学の諸分野における高度の専門知識に基づき、狭い専門領域にとらわれず、学際的・総合的な教育研究を行うことにより、複雑化、多様化する現代社会に柔軟に対応でき、創造的な知性と国際的な視野をもった研究者及び専門的職業人を育成することを目指します。

地域文化論専攻は、各地域に固有の文化を高度な専門性とともな学際性・総合性も視野に入れ、人文諸科学の様々な研究視点から探求することを教育研究の目的とし、地域文化の理解と発展等に指導的役割を發揮しうる人材を育成することを目指します。**社会科学専攻**は、社会の諸問題を社会科学の観点から高度な専門性と幅広い視野をもって考究することにより、地域社会に貢献することを教育研究の目的とし、地域における政策形成、企業活動等に指導的役割を發揮しうる人材を育成することを目指します。

このような人を求めます(アドミッション・ポリシー)

■ 地域文化論専攻

- ① 地域固有の問題とその背景に強い興味・関心のある人
- ② 専門分野の研究を通じて、さらに高度な地域理解を目指している人
- ③ 自ら情報を発信し、社会への貢献を目指していこうとする意欲をもつ人

■ 社会科学専攻

- ① 法律、政治、経済、経営に対する強い知的好奇心をもつ人
- ② 専門分野の研究を通じて、地域の課題を解決しようとする意欲のある人
- ③ 理論だけではなく、実践力も身につけたいと考えている人

専攻及び募集定員

▶ 地域文化論専攻 **一般入試** **社会人入試** **留学生入試** を合わせて **入学定員8名**

▶ 社会科学専攻 **一般入試** **社会人入試** **留学生入試** を合わせて **入学定員7名**

入試方法・試験科目

	一般入試	社会人入試	留学生入試
地域文化論専攻	・面接 ・共通問題(小論文) ・専門科目1科目	・面接 ・共通問題(小論文) ・専門科目1科目	・面接 ・共通問題(小論文) ・専門科目1科目
社会科学専攻	・面接 ・専門科目2科目	・面接 ・小論文	・面接 ・専門科目1科目 ・小論文

※人文社会科学研究科入試の出願期間は、例年1月中旬に設定されており、入試は例年2月上旬に行われます。

※出願資格、出願手続き、過去の試験問題等の入試情報については、三重大学人文学部学務担当に問い合わせて下さい(本パンフレットの裏表紙を参照して下さい)。

次のホームページも参照して下さい。 <http://www.human.mie-u.ac.jp/gakubu/daigakuin/>

在学期間と長期履修制度について

人文社会科学研究科の標準就業年限は2年です。有職者の場合には、夜間開講授業を履修することによって**原則2年間で必要な単位を履修する「標準在学コース」**の他、昼間開講授業と夜間開講授業を履修することによって、**原則1年間で必要な単位を履修する「短期在学コース」**が用意されています。また、下記の「長期履修学生制度」も利用できます。

「長期履修学生制度」は、職業等に従事しながら、個人の事情に応じて、柔軟に標準修業年限(2年)を超えて履修し学位等を取得できるようにする制度です。長期履修学生として認められた場合は、修業年限は最大4年で、授業料は2年間(標準修業年限)に支払うべき授業料総額を、あらかじめ認められた修業年限で除した額をそれぞれの年(学期)に支払う事となります。つまり**2年間の授業料で最長4年間学ぶことができます**。長期履修を希望する場合は、あらかじめ出願書類と共に「長期履修申請書」等必要書類を提出しなければなりません。

授業料の納入例

標準就業年限 (2年)	1年目 (535,800円)	2年目 (535,800円)	総額 1,071,600円	
3年の長期履修学生 として認められた場合	1年目 (357,200円)	2年目 (357,200円)	3年目 (357,200円)	1071,600円÷3年 =357,200円 (1年間の授業料)
4年の長期履修学生 として認められた場合	1年目 (267,900円)	2年目 (267,900円)	3年目 (267,900円)	4年目 (267,900円)
				1,071,600円÷4年 =267,900円 (1年間の授業料)

カリキュラムの概要

▶ 地域文化論専攻

「地域社会文化論専修」と「地域言語文化論専修」の2専修から構成されます。
単位履修基準は合計30単位と修士論文です。

1年生		2年生	
前期	後期	前期	後期
特別研究Ⅰ (必修2単位)	特別研究Ⅱ (必修2単位)	特別研究Ⅲ (必修2単位)	特別研究Ⅳ (必修2単位)
修士論文			
指導教員が指定する特講および演習 (必修4単位)			
当該専修の授業科目 (必修選択10単位)			
三重の文化と社会Ⅰ (2単位)	三重の文化と社会Ⅱ (2単位)		
自由選択 (8単位)			

▶ 社会科学専攻

「地域行政政策専修」と「地域経営法務専修」の2専修から構成されます。
単位履修基準は合計30単位と修士論文です。

1年生		2年生	
前期	後期	前期	後期
特別研究Ⅰ (必修2単位)	特別研究Ⅱ (必修2単位)	修士論文	
指導教員が指定する特講および演習 (必修4単位)			
当該専修の授業科目 (必修選択14単位)			
三重の文化と社会Ⅰ (2単位)	三重の文化と社会Ⅱ (2単位)		
自由選択 (8単位)			

※学位の授与・・・地域文化論専攻の修了生には「**修士(人文科学)**」、社会科学専攻の修了生には「**修士(社会科学)**」の学位が授与されます。

「三重の文化と社会」

地域連携、地域貢献を特色とする人文社会科学研究科では、「三重の文化と社会」という授業を設け、地域に根ざした研究を重視しています。毎年、三重県下の市町から研究対象地域を選び、本科目を受講した大学院生が、自ら対象地域に関する研究テーマを設定し、調査・研究を行っています。文献研究、フィールドワークを行い報告書としてまとめ、最終的に学内や現地で大学院生による研究成果報告が行われます。また、研究科発行の雑誌「TRIO」にも調査報告が掲載されます。このように、「研究」「教育」「地域連携」が一体となる取り組みを進めています。



研究成果報告会(名張市)

最近の実績

- 2008年度 四日市市の研究
- 2009年度 津市の研究
- 2010年度 伊勢市の研究
- 2011年度 名張市の研究
- 2012年度 鳥羽市の研究
- 2013年度 伊賀市の研究

研究・教育スタッフと専門分野

(2013年10月現在)

▶ 地域文化論専攻

哲学、歴史学、社会学、文化人類学、地理学、美術史、言語学、文学、図書館・情報学などの様々な学問領域の中から、学生が選ぶ専門分野を中心として理論と知識を学び、地域理解の能力を高めます。これと同時に世界の各地域の文化を広く学び、国際的な視野を持つようになります。

地域社会文化論専修

哲学・思想、歴史学、社会学、文化人類学、地理学、図書館・情報学、環境学等の授業科目を幅広く提供します。日本、アジア、オセアニア、ヨーロッパ、アメリカの諸地域における社会と文化について教育研究を行います。

哲学・思想	歴史学	社会学
遠山 敦【倫理学, 日本倫理思想史】	山中 章【日本考古学, 歴史考古学】	武笠 俊一【社会学】
片倉 望【中国哲学】	山田 雄司【日本史学, 中世史学】	永谷 健【社会学】
久間 泰賢【インド哲学, 仏教学】	塚本 明【日本史学, 近世史学】	児玉 克哉【社会学, 平和学】
田中 綾乃【西洋哲学, 倫理学, 美学】	高村 武幸【中国古代史】	村上 直樹【理論社会学】
相澤 康隆【哲学, 倫理学】	野村 耕一【ヨーロッパ近現代史】	江成 幸【社会学】
薄井 尚樹【哲学】	森脇由美子【アメリカ史】	石井 眞夫【文化人類学】
小川真里子【科学史, 科学論】	藤田 伸也【東アジア美術史】	立川 陽仁【文化人類学】
地理学	図書館・情報学	
森 正人【文化地理学】	三根 慎二【図書館・情報学】	
安食 和宏【村落地理学】		
谷口 智雅【自然地理学, 陸水学, 環境学】		
北川 眞也【政治・社会地理学】		
中川 正【文化地理学】		

地域言語文化論専修

日本、中国およびその周辺、ヨーロッパ、アメリカにおける言語と文学に関する授業科目を幅広く提供します。それぞれの地域社会における言語文化について教育研究を行います。

日本語・日本文学	中国語・中国文学	ドイツ語・ドイツ文学
川口 敦子【日本語学】	福田 和展【中国語学】	井口 靖【ドイツ語学】
本廣 陽子【日本中古文】	荒井 茂夫【中国文学, 華文学, 華人研究】	大河内朋子【ドイツ文学】
吉丸 雄哉【日本近世文学】	湯浅 陽子【中国古典文学】	菅 利恵【ドイツ文学】
尾西 康充【日本近代文学】		
フランス語・フランス文学	英語学	英米文学
グッドマンティエリ【比較文化, フランス語】	服部 範子【英語学】	赤岩 隆【イギリス文学】
山本 寛【フランス文学】	綾野 誠紀【言語学】	吉野 由起【イギリス文学】
	吉田 悦子【言語学, 語用論】	小田 敦子【アメリカ文学】
	杉崎 鉦司【言語心理学】	井上 稔浩【アメリカ文学】
	澤田 治【理論言語学】	野田 明【アメリカ文学】
日本語教育学		
藤本 久司【日本語教育学】		

これまでの修士論文題目 (2008~2012年度の研究科長賞受賞論文)

- 『奥の細道』における蘇軾の詩の借用及びその創造 - 「雲巖寺」「壺の碑文」「羽黒山」「象潟」をめぐって -
- Indonesian Migrant Workers in Japan : A Study on Working and Living Condition of Indonesian Trainees and Technical Interns
- 加藤楸邨論 - キリスト教の受洗とその父の影響 -
- 古代駅家の配置に関する一考察 - 駅家設置の歴史的背景から -
- 平安期若狭国の製塩に関する一考察 - 東大寺西大寺領塩山の分析を中心として -

研究・教育スタッフと専門分野

(2013年10月現在)

▶ 社会科学専攻

法学、政治学、経済学、経営学などの学問領域の中から、学生が選ぶ専門分野を中心として理論と知識を学び、地域理解の能力を高めます。これと同時に地域社会が抱える課題を解決する方法を考えます。

地域行政政策専修

政治学、公法学、経済学(経済理論・経済政策)に関連する授業科目を幅広く提供します。地域の公共的な政策課題に関する教育研究を行います。

政治学

麻野 雅子【現代政治思想, 公共性論】
 岩本美砂子【ジェンダーと政治, 政治学】
 樹神 成【行政学, 比較地方自治】
 古瀬 啓之【東アジア国際政治史, 国際関係論】

公法学

伊藤 睦【刑事訴訟法, 少年法】
 岩崎 恭彦【行政法, 地方自治法, 環境法】
 内野 広大【憲法学】
 洪 恵子【国際組織法, 国際法, 国際刑事法】
 高橋 秀治【法哲学】
 田中亜紀子【刑法, 刑事法史, 司法福祉】
 前田 定孝【行政法, 環境法】

経済学(経済理論・経済政策)

川地 啓介【公共経済学】
 深井 英喜【福祉国家体制論, 失業・貧困問題】
 和田 康紀【社会保障論, 福祉経済論】

地域経営法務専修

経営学、民法学、経済学(経済史・経済学各論)に関連する授業科目を幅広く提供します。地域で活躍する企業・NPO・市民の経済的・法的課題に関する教育研究を行います。

経営学

青木 雅生【経営学総論, 経営史】
 後藤 基【マーケティング論】
 野崎 哲哉【金融論, 銀行論】
 森 久綱【畜産経済論, 食料・農業問題】
 森原 康仁【多国籍企業論】

民法学

稲垣 朋子【家族法, 親権法】
 上井 長十【民法(財産法), 契約法】
 藤本 真理【労働法, 社会法, 労働契約】
 白石 友行【民法(財産法), 民事責任法】
 名島 利喜【商法, 会社法, 企業形態】

経済学(経済史・経済学各論)

朝日 幸代【地域経済, 地域観光】
 落合 隆【国際経済学, 産業組織論】
 豊福 裕二【土地・住宅経済論, 住宅・居住問題】
 堀内 義隆【日本経済史, アジア経済史】

※計量経済学の担当教員は2014年4月に着任予定です。

これまでの修士論文題目(2008~2012年度の研究科長賞受賞論文)

- 景観協定による景観まちづくりー近江八幡市小船木エコ村にみる景観協定の役割ー
- 児童の権利条約とわが国の少年司法の課題
- 経営環境変化による日系自動車企業の部品調達への影響についての研究
- 性犯罪被害者支援の現状と課題
- 地方議会改革の現状とそのゆくえ



「民俗文化論演習」の授業



現地調査(名張市)

修了生の進路(過去5年間の主な就職先・進学先。社会人入学者の勤務先も含む。)

一般企業

三重県商工会連合会/津市NPOセンター/日本国際サービス/三重カラー印刷/アクティオ/合歡の郷リゾート/北伊勢上野信用金庫/大府法律事務所/JA三重信連/生活考房/ナムココミュニケーションズ/日本原子力開発機構/三重県地域生活定着支援センター/東海医療工学専門学校/三重県国民健康保険団体連合会/ツルタ製作所/JA高知市/三重大学出版会/平田不動産事務所/学校法人セムイ学園/医療法人豊岡会/CD S/アルペン/三重県保険医協会/三重県社会福祉協議会/いそやま保育園/三井住友トランス・パナソニックファイナンス/有限会社アプリ/丸善/

公務員

日本司法支援センター(法テラス)/愛知県小学校/三重県庁/亀山市役所/鈴鹿市教育委員会/三重県史編集グループ/桑名市博物館/鈴鹿市役所/いなべ市役所/法務省法務局/浜松市役所/福山市文化財課/三重県立高等学校(国語)/三重大学/

大学院進学

神戸大学大学院文学研究科/三重大学大学院医学研究科/一橋大学大学院法学研究科/南山大学大学院人間文化研究科/奈良大学大学院文学研究科/名城大学大学院薬学研究科/

修了生からのメッセージ

私は芸術・文化の振興及び文化財の保護・活用に関する仕事をしています。その仕事内容はとても幅広く、何に対しても興味を持って取り組む大切さを実感しています。大学院では日本考古学を専攻し、研究だけでなく授業を通して様々なことに興味、関心を広げることができました。また、研究を通して築いた人間関係は私の大きな財産となり、仕事を進める上での強い推進力になっています。皆さんもご指導くださる先生や共に学ぶ仲間を大切に、学業に励んでください。



地域文化論専攻 2012年修了
KMさん

私は大学生活の中で、ある友人と出会い、話をしているうちに「労働」に関心を持ち、もっと研究したいという思いから大学院に進学しました。大学院では企業誘致が地域の労働市場に与える影響をテーマに研究しました。調査を進めるうちに、人の役に立てて、なおかつ「労働者」に関わる仕事をしたいと思うようになりました。現在は労働基準監督署で労災保険給付の仕事をしています。この仕事は怪我をして大変な思いをされている労働者の方々への保険給付の仕事で、人の役に立てるとてもやりがいのある仕事です。もし、4年間でもっと研究したいことが見つければ、ぜひ大学院への進学も考えてみてください。



社会科学専攻 2008年修了
KTさん

取得について 教育職員免許状の

すでに中学校教諭または高等学校教諭の一種免許状(国語・社会・地理歴史・公民・英語)を有している者は、本研究科において所定の単位を修得すれば、当該教科に係る専修免許状(中学校、高等学校)を取得できます。

取得可能な専修免許状の種類

地域文化論専攻

中学校教諭専修免許状(国語・社会・英語)
 高等学校教諭専修免許状(国語・地理歴史・公民・英語)

社会科学専攻

中学校教諭専修免許状(社会)
 高等学校教諭専修免許状(公民)